

氏名	鈴木康美	部署	看護学科(基礎看護学)	職名	教授
研究分野	看護管理学、継続教育、リフレクション、成人学習、協同学習				
学位	修士(看護学)				
学歴	2006年千葉大学大学院看護学研究科修士課程修了				
経歴	1995～2014年東邦大学医療センター佐倉病院、2010～2013年東邦大学看護キャリア支援センター副センター長、2014年 日本健医療大学 保健医療学部 准教授 2016年 埼玉県立大学 保健医療福祉学部 看護学科 教授				
所属学会(役職)	日本看護科学学会、日本看護管理学会、日本看護研究学会、日本看護教育学学会、日本協同教育学会				

【2019年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	中規模病院で看護部教育の中核を担う教育責任者が最大限、役割、能力発揮できる環境整備と支援のポイント	単著	なし	日総研、看護部長通信、Vol17(1) P11 - 17	鈴木康美	2019.4
2						
3						
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
2	「新人看護師教育担当者能力自己評価票」(SS-CES) Ver.1の信頼性・妥当性の検証」原著	共著	あり	日本看護管理学会会誌 Vol.23(1)19-27	○黒田久美子、西山ゆかり、三谷理恵、和住淑子、室谷和子、鈴木康美、杉原多可子	2019.3
3	「障がい者スポーツ大会における看護職の活動の現状と課題に対する文献検討」	共著	あり	日本障がい者スポーツ健康科学看護学会 学術誌	○吉村基宜、田中広美、鈴木康美、徳本弘子：	2019.3
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者(発表者は○印)	発表等年月
1	看護管理学に協同学習を導入した授業実践	単独		日本協同学習学会(高知)	鈴木康美	2019.10
2	看護学生時代の学び・経験が学校から仕事への移行に与える影響；2年目看護師のプロアクティブ行動に着目して	共同		日本看護管理学会(新潟)	○太田雄馬、鈴木康美、田中広美、徳本弘子	2019.8
3	「臨床経験10年以上の看護師の臨床判断の研究 - 思考過程に着目した実践事例の分析から-」	共同		日本看護学会 看護教育	○加藤晴美、鈴木康美、徳本弘子	2019.8
(4) その他						
	名称	単・共		発表場所等	発表者(発表者は○印)	発表等年月
1	該当なし					
2						
3						
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称			研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	奨励研究			「A県内の中規模病院の教育責任者からみた院内教育の現状と課題」研究代表者	研究代表者	2019. 4～2020. 3
2	基盤研究(C)			「看護教員の教育力量形成に関する研究 - 事例検討を用いた授業力量形成の過程」研究分担者	研究分担者	2017. 4. ～2020. 3

3				
3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	看護管理	○	15	科目責任者として、看護管理に関する理論、医療体制、医療安全、看護職に関連する法令、キャリア開発についての講義、グループワークを取り入れ、積極的に学習できるように計画し、実施した。
2	看護管理学システム論	○	30	科目責任者として、大学院生を対象に、看護管理理論、人的資源管理、質の管理、働き方改革など、幅広く関心を広げ、討議を取り入れ、理解を深めた。
1	看護教育学		18	大学院生を対象に、院内継続教育、キャリア開発に関する講義、討論。
2	IPW論		6	大学院生を対象に、看護職からみた、IPW論について、講義し、他職種との連携について、グループワークを実施した。
3	看護管理学	○		日本保健医療大学で、4年生に、看護管理学の科目責任者として、講義、演習を実施した。看護管理に関心が持てるように工夫した。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	看護学演習（看護教育学）		30	看護学教育領域の探求したい看護教育現象の文献検索、研究方法について検討する。特別研究で探究するテーマと研究方法を見だし、研究デザインが記述、研究実施、発表、論文作成までのサポート。
1	看護方法Ⅰ		30	バイタルサイン測定、ベッドメイキング等を小グループでの指導に関わった。
2	看護方法Ⅱ		30	移動、排泄等日常生活援助の基本原則の理解、小グループへの細かい指導を行った。患者体験を踏まえ、グループでの振り返りを重視した。
2	看護方法Ⅲ		30	食事、清潔等日常生活援助の基本原則の理解、小グループへの細かい指導を行った。患者体験を踏まえ、グループでの振り返りを重視した。
3	看護方法Ⅳ		30	採血、診療の介助等の小グループに指導した。
4	看護方法Ⅴ		30	フィジカルアセスメント、シュミレーション学習の機会を活用し、積極的な学習の支援をした。
5	看護過程論		30	看護過程の基本的な学習の後、グループワーク、個人ワークの支援を学生個々の到達状況に合わせて指導した。

(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	基礎看護学臨床実習Ⅱ	○	学外実習：7日 学内実習：9	科目責任者として、事前学習、オリエンテーションの企画、実習中の教員、学生の指導、トラブルの対処を行い、実習が円滑に進むように支援をした。
2	基礎看護学臨床実習Ⅰ		学外実習：5日 学内実習：2	医療施設の構造、環境についての学習と看護師とのシャドーイングの円滑な支援。草加市立病院担当。
2	ヒューマンケア体験実習		学外実習：4日 学内実習：5	初めて多領域との学生との実習を、自主的に、円滑にできるよう支援した。 学生10名担当。
3	総合実習		学外実習：11日 学内実習：5	実習指導者として、春日部市立医療センターで、4年生に、学生によるチームナーシングの実習を企画し、実施した。チームリーダー、メンバーの役割について支援した。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業研究	2019. 4～12	主指導 5名	副指導 名
2	修士論文指導	2019. 4～2020. 3	主指導（指導教員） 名	副指導（指導補助教員） 2名
3			主指導（指導教員） 名	副指導（指導補助教員） 名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	質的研究会	2019. 4～2020. 3	質的研究に取り組み大学院生の勉強会のサポートをした。	
2				
3				
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	新人看護職員研修責任者研修会	千葉県看護協会	新人看護職員研修計画の立案について	2019. 8～10
2	看護実践とリフレクション	千葉県看護協会	リフレクションについて	2019.11
3	看護学教育指導者研修ーベーシックコース	千葉大学大学院看護実践研究指導センター	看護における成人学習のあり方	2019. .8
4	認定看護管理者研修セカンドレベル	新潟県看護協会	組織論、組織変革について	2019. 5
5	看護実践とリフレクション	大阪赤十字病院	リフレクションについて	2019.9
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期
1	該当なし			
2				
3				
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			
2				
3				
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			
2				
3				
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	衛生委員会		2019年度

2	全学的委員会及びセンター業務等	大学院教務委員会	2019年度
3	学科等における委員会等	看護学科担任長 2年	2019年度
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			